

6. アンケート・ヒアリング調査結果・・・4 章

🍀 アンケート調査概要

CCA 地域である新潟市西区の 2 地域の地域住民の猫に対する意識についてのアンケート調査（調査期間：2024 年 5 月 15 日～29 日）の結果を示す。また、卒業研究時に長岡市の 2 地域の地域住民の猫に対する意識についてのアンケート調査（2022 年 10 月 31 日～11 月 6 日）の結果と比較しながら考察を行う。調査項目は、論文 p62, 63 を参照。

🍀 アンケート回収率

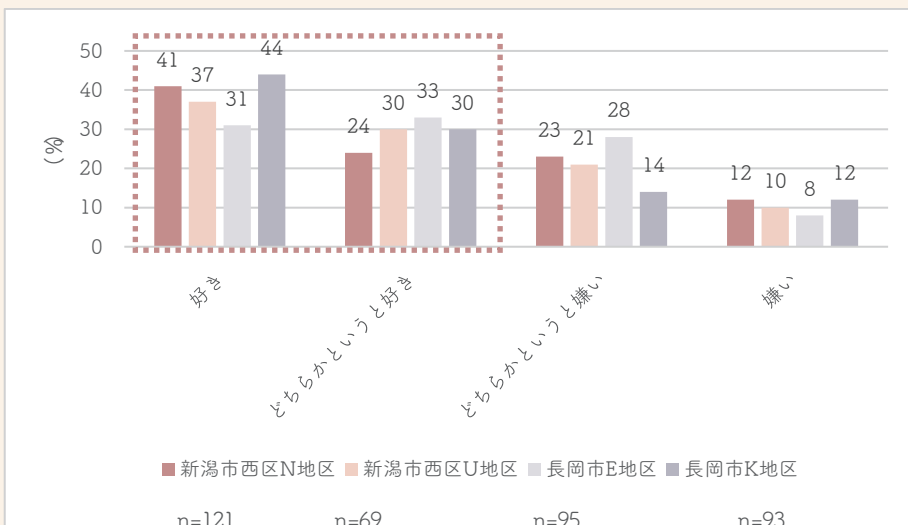
- 新潟市西区 U 地区：112 部配布し 70 部回収（62.5%，ポスティング）
- 新潟市西区 N 地区：245 部配布し 123 部回収（50.2%，回覧板に同封）
- 長岡市 E 地区：200 部配布し 100 部回収（50%，ポスティング）
- 長岡市地区：200 部配布し 93 部回収（46.5%，ポスティング）

🍀 ヒアリング調査概要

CCA 地域である新潟市西区の 2 地域の地域住民に対して、猫に対する意識についてのアンケート調査結果を基にヒアリング調査（2024 年 8 月）を行った。ヒアリング対象者は U 地区では、70～80 代の男性 2 人、女性 3 人であり、5 人中 3 人が CCA 参加者である。N 地区では、40～70 代の男性 3 人、女性 6 人であり、9 人中、4 人が CCA 参加者である。調査項目及び結果は、論文 p89, 90, 93, 94 を参照。

🍀 アンケート・ヒアリング結果

【猫についての質問】

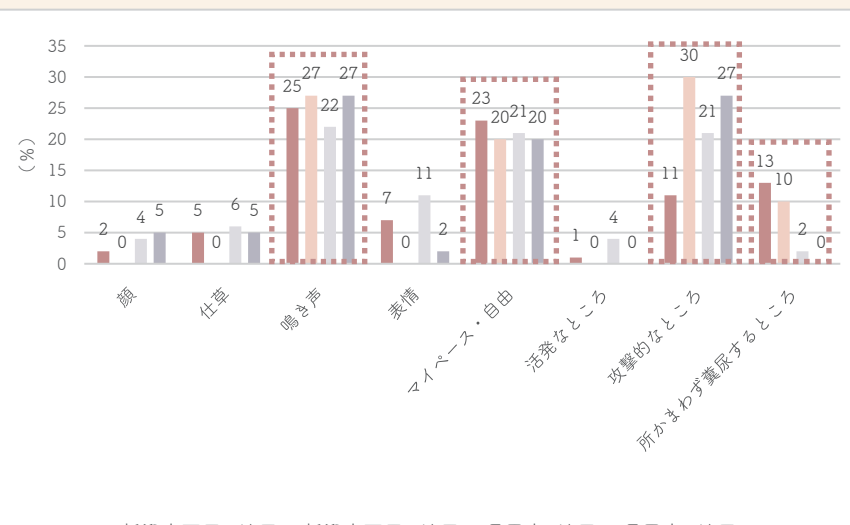


①「猫は好きか」の結果

猫が「好き」側の回答者は、全ての地域において 6 割以上の結果が得られた。

ヒアリング調査より

猫が嫌いな人は、幼少期から身近に猫などの動物がいない環境で育ったため、どう接していいかわからないため、猫が「嫌い」と回答した人も多数見られた。



②-B「猫の嫌いなところ」の結果

「鳴き声」、「攻撃的なところ」、「マイペース」、「糞尿するところ」どの地域においても共通の認識となった。

ヒアリング調査より

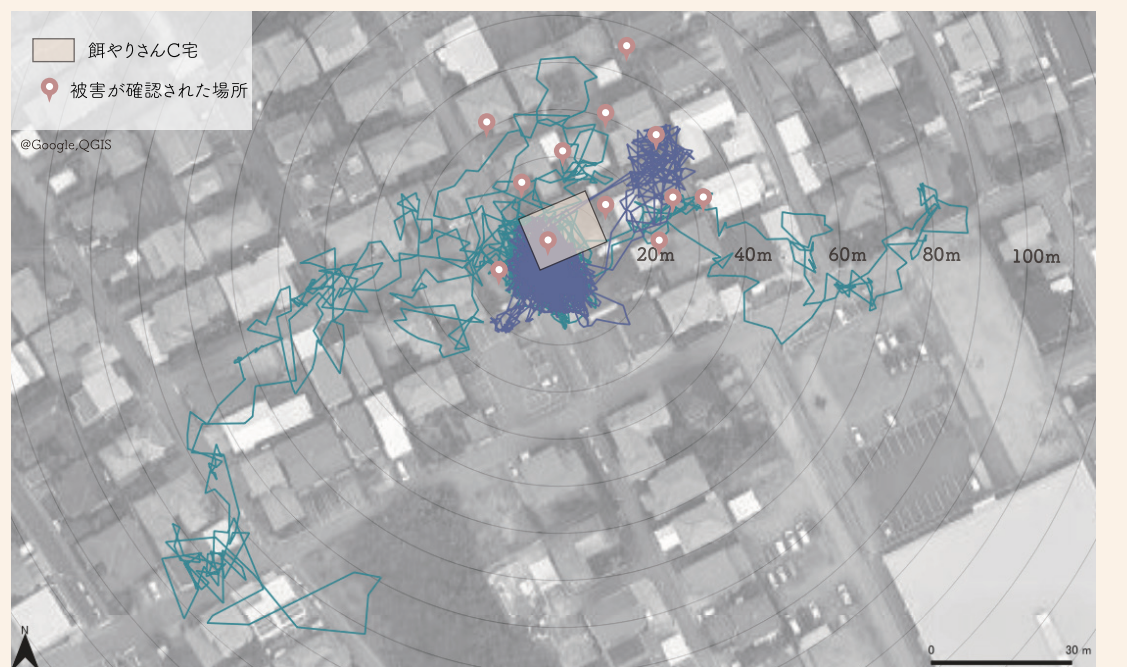
猫が嫌いになる原因として、これらの「猫による被害を受けたことで嫌いになった」という声が多数聞かれた。

【猫による被害について】

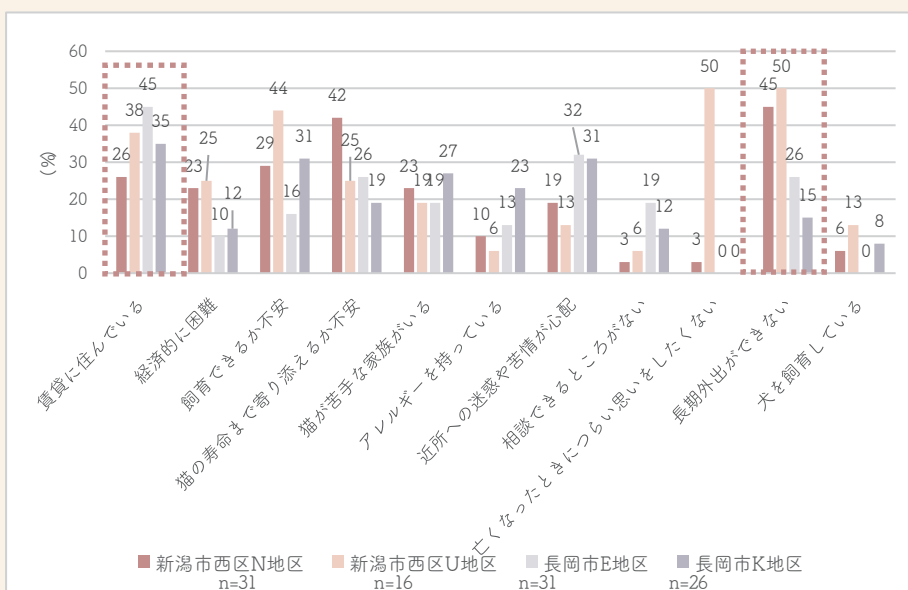


猫による被害対策では、市販の猫よけ対策グッズ等を利用して。対策方法によっては人にストレスとなっている様子も見られた。

餌やりさんC宅に注目する。被害場所は、餌やりさん宅から 30m 圏内の場所で猫による被害が多発していた。猫の行動圏とも被害場所は重なっていた。



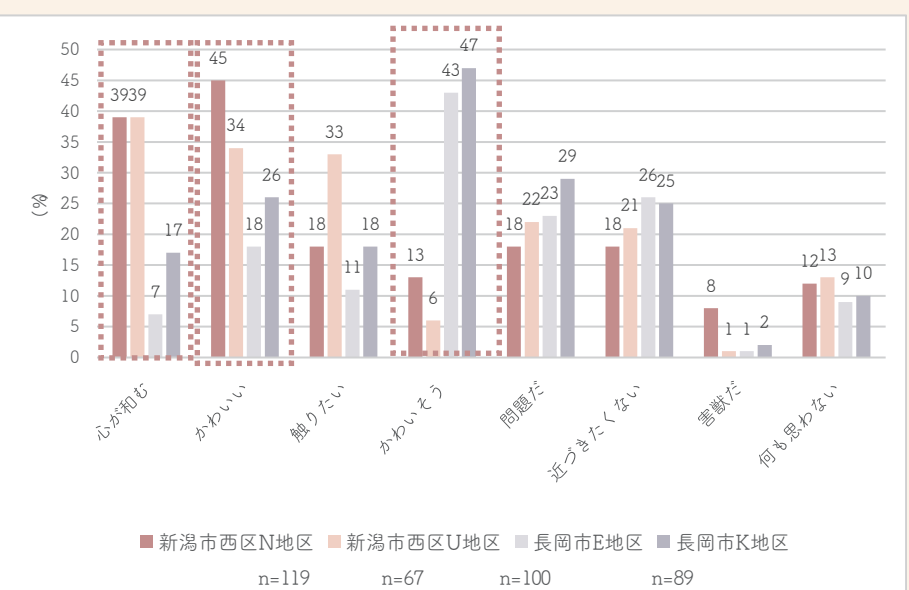
【猫の飼育についての質問】



②-A2「飼育できない理由」の結果

猫との住環境が整えられていないことが猫を飼育するうえでの課題となった。

【外にいる猫についての質問】

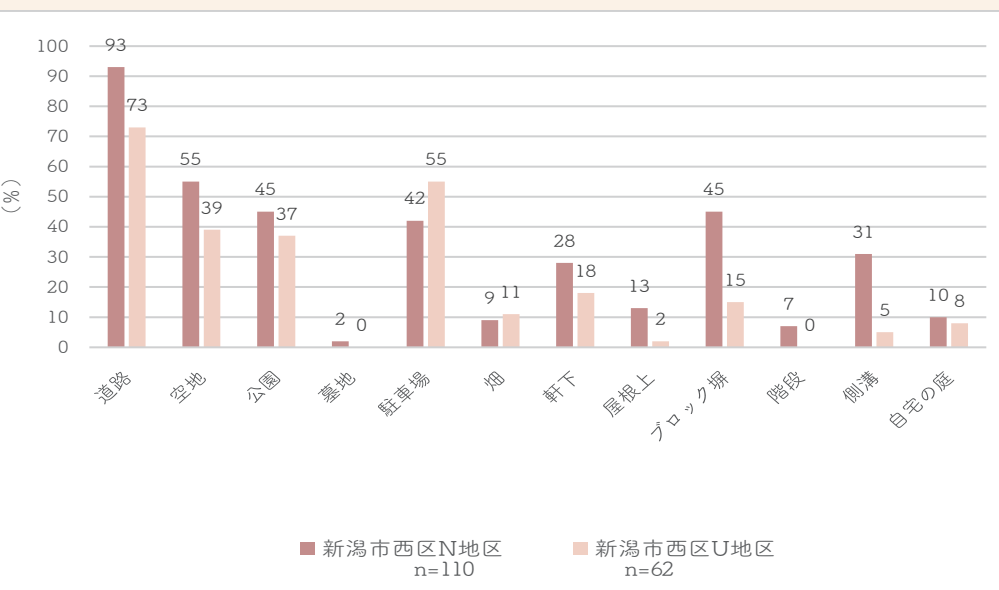


②「猫を見かけたときどう思うか」の結果

CCA 地域では猫に対して肯定的な意見が多いが、CCA 未実施地域では、「かわいそう」という意見が多かった。

ヒアリング調査より

CCA 地域では、『猫が飼いか野良猫かわからないと不安になる。』という意見も多数聞かれ、管理されていない猫への不安を感じる人もみられた。



①-A「猫を見かける場所」の結果

N 地区のほうが猫が目撃される場所が多い結果となった。N 地区は U 地区より猫の頭数が多いためと考えられ、U 地区では TNR の効果が表れていることが考えられる。

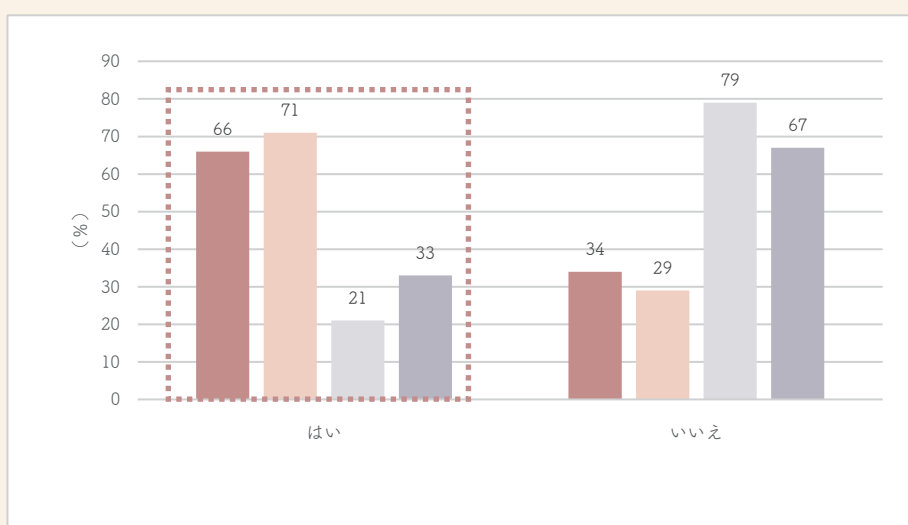
側溝

ブロック塀

空き地

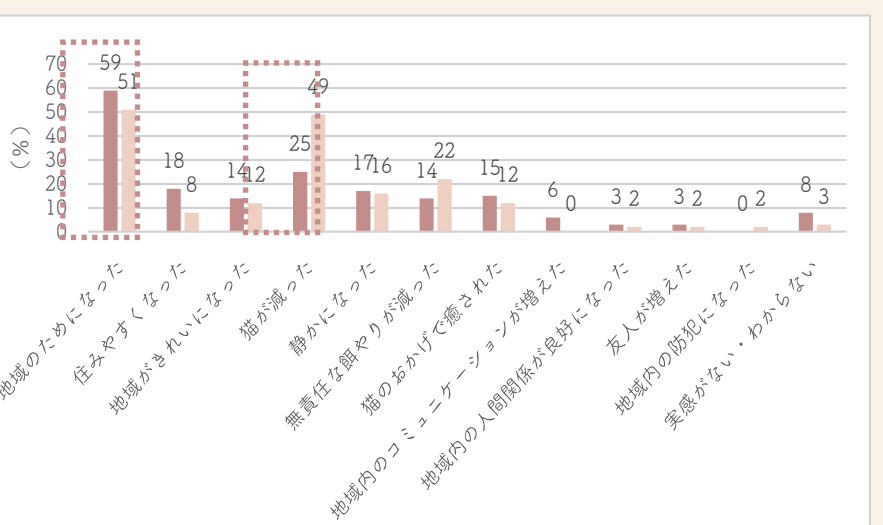
軒下

【CCA についての質問】



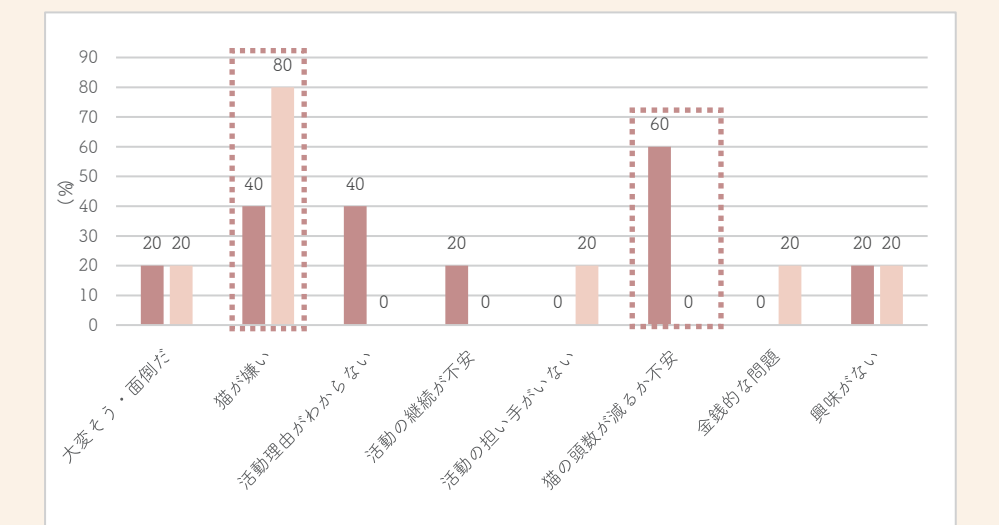
①「CCAを知っているか」の結果

CCA の認知度は、CCA 実施地域では約 7 割、CCA 未実施地域では約 3 割の認知度となった。まだ、一般的には活動の認知度が低い。



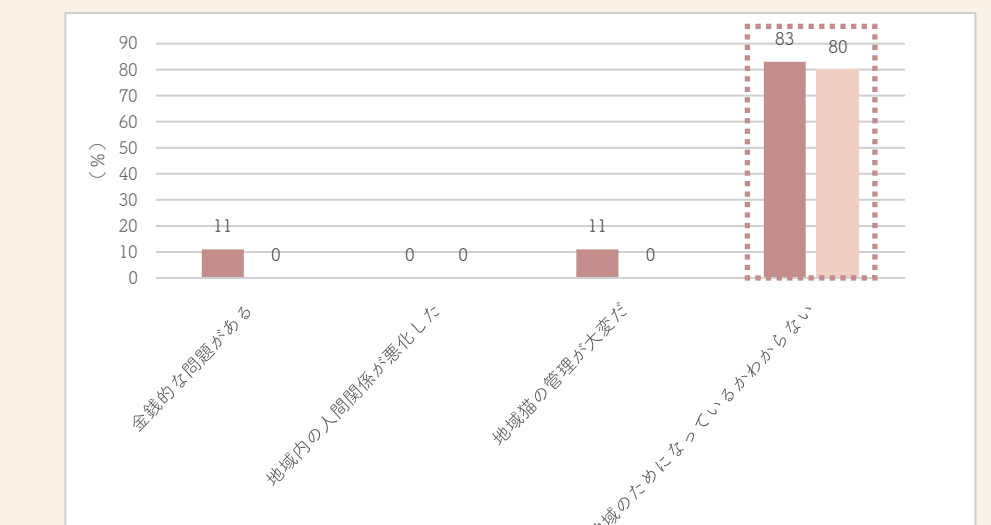
⑤-A「CCAを始めたよかった理由」の結果

「地域のためになっている」と実感する人も多数。活動を長く続けるほど、猫の頭数が減ることを実感している人が多い。



④-B「CCAに反対する理由」の結果

「猫が嫌い」や「猫の頭数が減るか不安」という意見も見られた。CCA の効果や猫が嫌いな人にもメリットがあることを伝えていくことで理解を得られることも考えられる。



⑤-B「CCAを始めて残念な理由」の結果

「広報活動」は、TNR 前後しか行っておらず、地域住民は CCA の様子などを知る機会が少ない。地域住民は実態を知る機会がなく、活動自体を否定的に見る意見も見られた。

🍀 アンケート及びヒアリング調査まとめ

猫に対する意識について

猫が嫌いな人を増やさないためにも、被害を防ぐ、最小限にする環境整備が必要と考えられる。幼少期から身近に猫などの動物がいないと、猫にも興味がなく、猫を含めた動物を嫌う傾向がみられた。CCA を新たな猫の飼育方法として確立することで、1 人 1 人が猫による被害を地域の課題として捉えられ、地域活動への参加へ促すきっかけになることが考えられる。

屋外にいる猫について

CCA 地域では、『猫が飼いか野良猫かわからないと不安になる。』という意見も多数聞かれ、管理されていない猫への不安を感じる人もみられた。そのため、地域猫や飼いか野良猫である目印を明確にし、共有する必要があると考えられる。また、猫による被害を受けても、猫は地域にいてほしいと考える人が多いため、CCA を地域活動として確立していく必要があると考えられる。

猫による被害について

猫による被害対策として、ホームセンターなどで購入できる猫除け対策をする人が多く、さらに猫が嫌いな人は追い払い行為をする人が多く見られた。そのため、人にとってストレスとなる場面もみられ、猫と無理に関わりたくない対策をとっていく必要があると考えられる。

CCA について

地域内の CCA への否定的な人にも理解を得てもらうためには、活動効果や活動実態を地域住民へ共有していくことで、理解を得ることができると考えられる。広報活動を定期的に行うことで、活動実態を知ることができ、活動がさらに認知され、賛同者が増えることで、活動者不足も補えることが考えられる。